令和４年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立 上落合 小学校 ）　　学校番号　０８０

【様式】

目指す学校像	○児童が生き生きと活動し、笑顔と活気があふれる学校　○児童一人ひとりを大切にし規律ある学校　○教師が誇りと使命感をもって働く学校　○教育環境が整い、安心安全で、きれいな学校　○保護者や地域から信頼されともに歩む学校
重点目標	１　真の学力の育成を図る教育課程の推進 ２　児童が生き生きと活動し、保護者や地域に信頼される学校づくりの推進及びリフレッシュ改修工事における適正な教育活動の実現 ３　HP とメールによる迅速な情報発信と業務の電子化、コミュニティ・スクール（CS）による学校・家庭・地域の連携の強化 ４　教員の指導力の向上を目指したアクティブ・ラーニング型授業の推進

※重点目標は４つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度			
	A	ほぼ達成	（８割以上）
	B	概ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不十分	（４割未満）

学校自己評価								学校運営協議会による評価
年度目標					年度評価			実施日令和５年２月１０日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	（現状） ○全国学力・学習状況調査では、国語、算数ともに全国を上回っており良好な結果である。また、学習に対する関心・意欲・態度に関する質問についても、肯定的な回答をした割合が全体的に高い。 （課題） ○質問紙調査では自己肯定感の数値は高いが、実際は、発言の声が小さかったり、自信なさそうに発表したりする姿が見られる。自ら学習に取り組むという点では、個人差が見られる。	・「個別最適な学び」の推進	①GIGA スクール構想にかかわり、前年度作成した上落合スタンダードとマニュアルの共通理解と改善を図る。 ②本年度導入されたスタディ・サプリを学校及び家庭において活用を図る。	①児童が登校したらタブレットの電源を入れることが定着できたか。 ②毎日授業でタブレットを活用できたか。 ③学校及び家庭において、スタディ・サプリを活用した学習に取り組めたか。	○前年度に作成した上落合スタンダードやマニュアルを足掛かりとして、授業においてタブレットを使うことが日常的な活動となった。全国学調の意識調査のタブレットの活用度について、市及び全国の平均を上回った。 ○スタディ・サプリにおいても、授業中は発展的または補習的にドリルや動画の活用を行えた。家庭学習についても、スタディ・サプリを課題に出したり児童が自主的に取り組んだりできた。	A	◆タブレット端末の故障が多く、修理に時間を要した。破損等の事故を防止する指導をするとともに、破損時には円滑に手続が行えるよう、来年度は、ＩＣＴ管理部を新設して対応する。 ◆スタディ・サプリでは、個人の様々な情報が蓄積されるので、児童の実践状況から学習に生かす視点を探し、指導につなげるようにする。	・「個別最適な学び」について授業参観をしていると特にタブレットの活用がされていると感じる。 ・「探究的な学び」は今日的な課題であり、積極的に取り組んでいる。 ・スタディ・サプリの家庭学習については個人差があると思うので、今後さらに研究をしていただきたい。
		・教科横断型の「探究的な学び」の実践	①STEAMS 教育については、作成したカリキュラムの検証を行う。 ②SDGｓ教育については、ＰＲシートを全面的に見直し、学習に結び付くカリキュラムを作成する。	①「STEAMS TIME」をカリキュラムどおり実施したか。 ②改訂した SDGs 教育のＰＲシートの中に学習に結び付く内容を位置付けられたか。	○「STEAMS TIME」にかかわる研修を夏季休業中に３回行って全教員で共通理解を図り、２学期以降３年生以上でカリキュラムを実施できた。 ○SDGs 教育のＰＲシートについては、福祉、生命尊重、環境教育の３つの視点で全面的に改訂できた。	A	◆本年度は実践することに重きを置いたので、来年度については、児童の発達段階や学習の系統性等を踏まえ、カリキュラムの改善を図っていく。 ◆SDGs 教育のＰＲシートを全面的に改訂したので、来年度は実践して内容を検証する。	
2	（現状） ○児童は全体的に穏やかで落ちついている。どの学年も誰とでも関わることができる。 ○昨年度は年間を通してあいさつの指導を行ったので、進んであいさつできる児童が増えてきた。 ○校庭が狭いため、業間か昼休みの一方でしか外遊びをすることができない。 （課題） ○高学年になるにつれて、「心と生活のアンケート」等に心の不安定さが現れる児童が増えている。 ○校舎の築年数が４０～６０年と老朽化しており、施設設備の故障も多い。 ○３年間にわたる工事で、校庭が半分以下になるなど、適正な教育環境を確保するのが難しい状況である。	・児童の生き生きとした教育活動を支援するための迅速かつ組織的な対応	①児童にかかわる問題への対応は「チーム学年」として学年主任を中心に「事実の確認→該当児童への指導→該当保護者への進捗状況の報告」をその日のうちに行う。 ②生徒指導・教育相談にかかわる情報交換会(定例会)を月に２回開催する。 ③欠席者のうち希望者には、誰一人取り残さないためのハイブリット授業について年間を通して実施する。	①問題を覚知した際、その日のうちに対応できたか。 ②生徒指導・教育相談にかかわる諸課題について、学年や専門家、関係機関と連携して対応できたか。 ③希望者に対してオンライン授業を年間を通して実施できたか。	○児童にかかわる問題が発生したときは、学年主任を中心にその日のうちに事実の確認から保護者への報告を遺漏なくできた。 ○生徒指導・教育相談にかかわる諸課題について、担当学年とスクールカウンセラー，スクールソウシャルワーカーとの連携が密に行えた。管理職は、児童相談所や中央区支援課、警察等との連携が図れた。 ○日常的に対面授業とオンライン授業を同時に行うハイブリット授業に全校で取り組めた。	A	◆児童の状況は刻々と変化するので、問題発生を待つことなく、違和感を感じた児童との面談を積極的に行い、問題の早期発見に努める。 ◆定例会を年度途中から生徒指導の回と教育相談の回に分けたので、特に教育相談におけるケース会議の効果的な進め方を探っていく。	・児童の生き生きとした教育活動を支援するための迅速かつ組織的な対応については、スピード感をもって丁寧に取り組んでいる。 ・児童の心に関する問題には、今後も丁寧に取り組んでいただきたい。 ・ハイブリッド授業についても積極的に取り組んでいる。 ・リフレッシュ改修工事が児童の教育に影響が出ないよう、引き続き積極的に取り組んでいただきたい。
		・リフレッシュ改修工事に対応した適正な教育活動の実現	①担当課や工事業者と毎週打合せや相談を行い、当事者意識をもって改修工事にかかわる。 ②改修工事にかかわる問題の洗い出しをするために、毎日校内巡視をし、問題が見つかった場合は、関係機関に相談し、学校でできることは迅速に対応する。	①関係者との打合せ内容を教職員に周知し、大きな事故無く教育活動を行えたか。 ②問題が見つかった場合に、関係機関か学校のどちらかで対応できたか。	○工事音について授業時には最小限に抑えるよう依頼し、大きな混乱なく第１期工事が終了した。 ○細部にわたるまで日常的に点検し、問題点が見つかったときには、すぐに関係機関と連携し、相手が対応できることは早急に対応していただいた。相手が対応できないことは、学校予算で業者を依頼したり、用務員に修繕してもらったりした。	A	◆第 2 期工事は、仮設校舎の建設により、校庭の利用が 1/4 程度になってしまうため、体育の時間を確保するため、近隣の公園や小学校での対応を依頼している。業間や昼休みについても、近隣の公園を活用していく。また、運動会や避難訓練等の学校行事も新しい方法で実施できるよう計画をしていく。 ◆再来年度は、体育館棟の改修工事のため、校内音楽会や就学時健診等の学校行事について、早い時期に実施方法について計画を立てていく。	
3	（現状） ○昨年度より紙媒体から電子媒体への移行を進めている。紙媒体への依存意識を払拭するため、タイムラグがないという電子媒体のよさについて啓発しているところである。 ○昨年度からＣＳ準備校となったが、活動自体はＣＳ実施校と同等の取組ができている。 （課題） ○電子媒体の活用がＤＸに直結するので、アナログで行っているもののデジタル化が求められている。 ○学校運営協議会での熟議は活発に行えたが、熟議で話し合われたことについての具体的な取組がまだなされていない。	・学校におけるデジタル・トランスフォーメーション（ＤＸ）の推進	①学校だより等の定期的な手紙をはじめ、文書形式のものについては、原則としてＨＰに掲載し、掲載時にはメールに掲載先のリンクを貼り周知する。 ②児童の欠席については、ＨＰに欠席連絡フォームを掲載し一本化する。 ③教材費等の現金集金をやめ、年４回の振込に切り替える。	①紙媒体の配付を必要最低限とし、電子媒体による情報提供ができたか。 ②欠席連絡について、欠席連絡フォームに一本化できたか。 ③教材費等の集金を振込に切り替えられたか。	○電子媒体による情報発信は定着できた。発信の手順として、まずは文書をＨＰに掲載し、その後メールに掲載先のリンクを貼り送信することで、混乱なく周知することができた。 ○欠席連絡フォームの運用も、円滑に行えた。 ○教材費等の集金は、年４回の振込に移行し、計画通り実施できた。	A	◆教材費の集金と支払の時期にズレが出て計画的に支払いができなかったので、来年度は４回の集金のうち２回を１学期に計画する。	・学校におけるデジタル・トランスフォーメーションにかかわり、手紙や欠席連絡、集金の電子化は、今の時代の流れに沿った対応である。 ・ＣＳ主導で、あいさつ通り設置が実現できたのはよい。今後あいさつ活動の充実に向け、学校・家庭・地域の連携を進めたい。
		・ＣＳによる学校・家庭・地域の連携強化	①本年度ＣＳで取り組む「小さなよき社会人を育成する」「自己肯定感を高める」ことについて、熟議で具体的な方策を決め、実行する。	①学校運営協議会の熟議でテーマにかかわる具体的な方策を決められたか。 ②具体的な方策を実行できたか。	○本年度は、「小さなよき社会人を育成する」という視点で児童のあいさつに焦点を当て、「あいさつ通り」を設置することになった。児童会では、啓発ポスターを作成するとともに、各学級で「あいさつ宣言」決め、あいさつに取り組んでいる。PTA は、啓発チラシを作成し、HP に掲載した。地域は、横断幕を作成し、生涯学習振興課及び南部公園整備課と連携を図り、２月中設置に向け準備している。	A	◆現在のあいさつ通りは、全校児童を網羅していないので、校地南側への設置の可能性や実際に実施しての問題点の把握及び改善に取り組んでいく。 ◆もう一つの視点である「自己肯定感を高める」ことについても実態を踏まえ協議を深めていく。	
4	（現状） ○若い教職員が多く、タブレット等のＩＣＴ機器の操作の習得が比較的早い。 （課題） ○タブレット等は教育の道具なので、ともすると道具を使うことが目的になりがちである。従来から大切にされている「児童が課題を意識して学習する」ための指導法について、研鑽を積む必要がある。	・児童の「主体的・対話的で深い学び」を推進するための指導力の向上	①問題解決型学習において、本時の目標に特化したまとめと振返りをする授業を全員が行えるよう、毎日校長が校内巡視を行い、必要に応じ指導を行う。 ②メタ認知力育成のため、振返りの時間を５分以上確保する授業を全員が行えるよう、全体会や研究推進委員会でそのねらいを伝達するとともに、よい実践については具体的によい点を示し全体で共有する。	①問題解決型学習において、本時の目標にかかわるまとめと振返りをする板書ができたか。 ②授業において振返りの時間を５分以上確保し、児童が自分の学びを実感したり、自分の課題をもてたりしたか。	○問題解決型学習における、本時の目標にかかわるまとめと振返りをする板書については、昨年度から取り組んでおり、どの教員も目標を意識した板書及び指導ができている。 ○授業の終末における振返りの時間の確保は、授業が計画通りに進まないことがしばしばある。また、個人の振返りを発表することによる共有化については、今後の課題である。	B	◆来年度も目標に特化した授業は引き続き取り組むが、振返りによるメタ認知力の育成に重点を置いて取り組んでいく。 ◆プロジェクタの設置により、黒板にスクリーンを貼ることも多くなったので、ＩＣＴ機器を活用した板書の在り方について研究に取り組みたい。	・問題解決型学習の充実とメタ認知力の育成に重点を置くという方向性がよいので、次年度も引き続き取り組んでいただきたい。